

■2013 年度

日本語教育部では、年に2回日本語コースを提供し、本学に在籍する留学生や各部局の留学プログラムに対応している。このほか、日本語教育関連プロジェクトや各種の留学プログラムの企画・運営も行っている。

1. 日本語教育関連プロジェクト

▼ウェブ版簡易プレイズメントのアップロードと実施

ウェブ上に、「ウェブ版プレイズメントテスト」「日本語クラスナビ」を作成し、渡日遅れの学生や渡日前のYCCS生に活用した。

http://www.isc.ynu.ac.jp/course/web_placement_test/Japanese_Level_Check.html

http://www.isc.ynu.ac.jp/course/course/class_navi/navi01.html

▼日本語サポーターの日本語クラス参加

2013年度より、日本人学生が、留学生の日本語学習へ理解を深め、留学生支援や交流促進を目的に、日本語サポーター制度を導入した。ウェブ上で、日本語サポーター募集クラスを公開し、国際課ほかの協力を得て、日本人学生の日本語クラスへの参加の機会を提供した。学部1年生から大学院生を含む、16名が登録し、多いものは10週にわたり参加した。

http://www.isc.ynu.ac.jp/course/course/japanese_students.html

▼学内SSプログラム生の日本語クラス参加・特別クラスの開催

SSプログラムで来日する学生が日本語を学ぶ機会を提供するために、ウェブ上で申込みの手続き等を周知し、クラス参加の機会を提供した。

<http://www.isc.ynu.ac.jp/course/pdf/ss.pdf>

1) 開講中のクラスへの参加

- ・上海交通大学学生 3 名 12 月～1 月
- ・大連理工大学学生 16 名 1 月
- ・台湾大学・政治大学・清華大学大学院生（日本語教育部門が企画申請し、採用された平成 25 年度留学生交流支援制度（短期受入れ）「新世代知日派台湾文学研究者養成のための日本台湾学術交流プログラム」）12 名

2) 日本語体験特別クラスの開講

・フィリピン・サントトマス大学大学院生 21 名、引率教員 3 名が参加（10 月 17 日）

・フィリピン・国立フィリピン大学ディリマン校学生 8 名が参加。同時期に来日した上海交通大学学生のうち日本語未習者 2 名も参加。（12 月 12 日）

2) の日本語体験特別クラスは日本語未習者を対象にしたもので、今年度新たに始めた試みであったが、参加者には大変好評であった。

▼学内行事「YNU 日本語スピーチ大会 2013」開催

2013 年 10 月 26 日（土）にホームカミングデーの行事の一つとして「YNU 日本語スピーチ大会 2013」を開催した。一時台風の接近により開催が危ぶまれたが、5 か国からの留学生 9 名がスピーチを披露し、本学の教職員、日本人学生以外にも、本学OB、市民ボランティア、出場者の友人達等、約 60 名が留学生のスピーチに耳を傾けた。今年度は、留学生によるスピーチに加えて、特別プログラムとして、本学の留学経験者によるスピーチ、及び本学における国際交流活動の紹介の時間を設けた。翌日の読売新聞朝刊に大会の様子が報道され、センターホームページにも、発表原稿やパワーポイントとともに、経緯を報告した。<http://www.isc.ynu.ac.jp/about/index.html>

▼海外協定校との高レベルプログラム関連の共同プロジェクト

2010 年度より本学の協定校である華東師範大学との共同プロジェクトとして開始した初級教科書の開発は 2012 年度に主な作業を完了し、第一冊は、2013 年 11 月に『新界標日本語 総合教程』（復旦大学出版社 全 509 頁）として刊行した。第二冊は、2014 年の刊行に向け作業を継続した。

▼神奈川県研修生の試験的受け入れ

神奈川県海外技術研修員事業の一環で来日中のモンゴル人研修生（モンゴル保健大学講師）を日本語クラスで受け入れた（2013年12月から2014年1月まで）

2. 日本語教育コース

▼全学講習日本語コース／JOY日本語プログラム

「全学講習日本語コース」は、研究生を含む本学の留学生対象のコースである。「JOY日本語プログラム」は、短期交換留学プログラムの学生を対象とするプログラムで、国際交流科目として開講された日本語科目である。研究生や大学院生が修了条件を満たした場合には、修了証を発行している。尚、本プログラムの概要、受講手続等については、年2回『日本語プログラム』を発行し、留学生センターホームページに公開している。

▼日本語研修コース

日本語研修コースは、前期は予備教育生（大学院進学予定の国費研究留学生）を、後期は予備教育生と教員研修留学生を対象とした15週のコースであり、レベル等によって、7～10コマの日本語科目の受講を義務付けている。

▼YCCSプログラム

YCCSプログラムでは、「日本語・日本事情」科目6コマ6単位、「日本文化と漢字」1コマ2単位の合計8単位を必修とする。日本語教育部では「日本文化と漢字」等の新規科目を開講し、YCCSのカリキュラムに合わせて時間割を再編し日本語のコーディネートを行った。1期生7名は、4レベルに分かれ受講した。

▼学部教養教育：外国人留学生のための授業科目

教養教育科目「日本語中級」6コマ、「日本語上級」10コマ、「日本語演習」3コマ、「日本事情」2コマ開講し、年間延べ約300人の学生が受講した。

▼英語による特別プログラムの日本語科目

2013年度の開講は以下のプログラムを担当した。

1) 春学期

- ・国際社会科学研究所財務省国税局提携による特別プログラム（MPE）

- ・国際社会科学研究所インフラストラクチャー管理学プログラム (IMP)

2) 秋学期

- ・国際社会科学研究所財務省国税局提携による特別プログラム (MPE)

3. 各種留学プログラムの運営

▼日韓共同理工系学部留学生事業 (日韓プログラム)

2013年度10月には第2次事業4期生8名の日韓生を受け入れ、半年間の予備教育を担当した。日本語クラスは、4技能を全体的に養成するクラスを4コマ、理工系日本語表現法1コマ、日韓文化比較1コマの6コマを必修としたほか、レベルに応じて計2コマを選択科目として履修させた。そのほか、日韓プログラムために特別開講した「理工系留学生のための英語」クラス1コマ、「留学生のための理工学入門」クラス2コマを履修させたほか、学部開講の「理工学部生のための数理モデリング」のクラス1コマを科目履修生として受講させて、専門教育の充実を図った。結果、学部の正規生に混じり、秀1名を含む全員合格という健闘振りを見せた。

さらに、大学での理系科目講義に慣れるために、理工学部教員の指定する学部理系科目講義を2コマ聴講し、その予習・復習を個人チューターとともに行うよう指導した。そのほか、2回にわたり、関東圏5大学合同の講演会およびプレゼンテーション発表会を行った。

▼横浜国立大学国際プログラム・世宗大学校日本交流プログラム

韓国の世宗大学校と本学教育人間科学部の部局間協定に基づいた授業料徴収型短期留学プログラム「横浜国立大学国際プログラム・世宗大学校日本交流プログラム(通称世宗プログラム)」が、試行的実施を経て、2013年度から正式に開始、4月～2月までの11ヶ月間、34名の学生を受け入れた。学生は日本語科目14単位、専門科目4単位を履修、その単位は世宗大学校で互換単位として認定される。日本語教育部は教育人間科部世宗プログラム委員および教務課基盤教育係の協力を得ながら、日本語を含む学務指導のみならず、生活指導を含む受け入れ業務全般を担当した。

▼平成25年度留学生交流支援制度（短期受入れ）プログラムの実施

JASSO の募集した平成25年度留学生交流支援制度（短期受入れ）プログラムに「新世代知日派台湾文学研究者養成のための日本台湾学術交流プログラム」にプログラムが採用され、1月18日～1月28日までの11日間、台湾大学・政治大学・清華大学からの院生12名を受け入れ、2回の国際ワークショップを含む交流活動を行った。